様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2015
課題番号：２６５９０２０９

研究課題名（和文）学生海外渡航時のリスク管理（予防・対策）に関する研究

研究課題名（英文）A study of risk management for study abroad programs in higher education

研究代表者
大橋　一友（Ohashi, Kazutomo）

大阪大学・医学（系）研究科（研究院）・教授

研究者番号：３０２０３８９７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：学生海外渡航時の危機管理体制に関するアンケート調査を152大学（383プログラム）で行い、学生海外渡航時の危機管理体制が不十分であることが明らかになった。さらに、研究成果の共有のために、ワークショップ「大学のグローバル化と学生海外渡航時のリスク管理」を開催した。
「学生海外渡航時リスク管理対応モデルマニュアル」を完成し、GLOCOLのWebと大阪大学OUKAにアップした。また、FDセミナー「全員参加型！ケーススタディから考える学生海外派遣時のリスク管理」などを開催し、危機管理シミュレーションプログラムを開発した。さらに、危機管理チェックリストの作成と遭遇事案データベースの構築を行った。

研究成果の概要（英文）：We conducted the questionnaire survey of risk management for study abroad programs in higher education at 152 universities (383 programs), and it became clear that the risk management among universities in Japan remained to be insufficient. Furthermore, we held the workshop "Globalization for universities and risk management for study abroad programs in higher education" for sharing results of our research.
We developed "Model manual corresponding to risk management for study abroad programs in higher education", and uploaded onto the websites of Global Collaboration Center (GLOCOL) and Osaka University Knowledge Achieve (OUKA). We held FD seminar “All school personnel need to consider the risk management for study abroad programs based on case study” and developed the simulation program of risk management for study abroad programs. Moreover, we preliminary made a check list for risk management and a database for incident reports.

研究分野：産婦人科学　国際母子保健学

キーワード：リスク管理　リスクコミュニケーション　学生　海外渡航　マニュアル

１．研究開始当初の背景

(1)グローバル人材の概念は 2011 年 6 月の「グローバル人材育成推進会議　中間まとめ」において、次のように整理されている。

①語学力・コミュニケーション能力

②主体性・積極性・チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

③異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

これらの 3 要素のうち、①の要素は日本人に最も欠けている要素であり、大学はいうに及ばず初等教育の段階からの改善の取り組みがなされている。しかし一方で、①のみではグローバル人材ではないということも重要である。そこで、②や③を向上させる方法として学生が海外に渡航することが行われ、学生の海外渡航は大学が単位化したプログラムから、単位化はされていないが教員が個人的に学生を引率するプログラム、さらには学生が個人的に海外渡航をする場合などさまざまな形で行われている。しかし、プログラムの種類にかかわらず、学生の海外渡航時の安全を図ることは教育機関としての義務であるが、その実態は十分に把握されておらず、また、リスク管理体制は十分ではない。そのため学生の海外渡航前のリスク予防教育や渡航時のリスク対応体制を確立することは、グローバル人材育成を進めるに当たっては喫緊の課題である。上記のように、近年、大学教育におけるグローバル人材の育成が推進されており、学生の海外渡航プログラムが実施されているが、リスク管理体制の構築は遅れている。リスク管理には、①学生を守る、②組織を守る、という 2 つの視点が重要である。教育機関や関連団体が独自に作成した学生や教職員のリスク対応マニュアルは存在するが、標準化はされておらず、さらに、リスクが発生した場合をシミュレーションした訓練は行われていない。本研究課題は政府の戦略を実現するために重要な課題であるにもかかわらず、従来は実施機関の実践、業務、工夫のレベルで行われており、内容についても学術的な評価がなされることは少なかった。

(2)大阪大学グローバルコラボレーションセンター（Global Collaboration Center: GLOCOL）は 2007 年に「グローバル化した世界の現実について深く理解し、国際性をもって意思疎通し、課題に取り組むことができる人材を養成する」というミッションを達成するために設立された。GLOCOL は 2013 年度には、学則で規定されているグローバルコラボレーション科目 30 科目を学部生や大学院生への国際性を滋養する教育として行ってきた。2010 年からは「海外体験型教育企画オフィス（Fieldwork, Internship and Experiential Learning Design Office: FIELDO)を GLOCOL 内に設置し、単位化されたプログラムとしての海外フィールドスタディを大学院生や学部生に提供し、さらに海外インターンシップを実施してきた。

２．研究の目的

本研究ではリスク予防、シミュレーション、標準化をキーワードに、大学における学生海外渡航時のリスク管理についての実態を把握し、標準マニュアルを作成することを目的とした。さらに、研究成果を、日本全国の教育機関ならびに諸機関に公表する。

３．研究の方法

(1)危機管理体制に関するアンケート調査

学校種別、派遣地域や派遣形態に偏りない調査対象を選択することで、日本の大学の学生海外派遣時のリスク管理の状況の全体像を把握するため、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が実施している留学生交流支援制度の採択プログラムを調査対象とした。平成 26 年 11 月から平成 27 年 3 月にかけて、JASSO 平成 25 年度留学生交流支援制度（短

期派遣）に採択された 533 プログラム（188 校）を対象に、郵送にて質問紙を送付し、383 プログラム（152 校）より回答を得た（回答率 72%）。

質問紙はプログラム企画時、渡航前、渡航中、渡航後に検討、配慮すべきと思われるリスク管理に関連する以下の事柄について質問した。

①プログラムの基本情報
②学生指導に関する情報
③学内体制に関する情報
④保護者対応に関する情報
⑤過去の事例に関する情報
⑥画期的な取り組みや困っている点についての自由記載

分析対象プログラムの特徴を把握するため、学校種別、派遣形態、派遣期間、リスク管理に関する学内体制、学生への指導体制と保険請求事例の有無の割合を算出した。その後、リスク管理に関する学内体制はどのような要因と関連がみられるのかについて検討するため、それぞれの項目と学内体制指標分類の関連を、カイ二乗検定を用いて分析した。また、個々のリスク管理に関する要因の相互関連についても分析した。

分析にあたり、リスク管理に関する学内体制を以下の要領で指標化し、学内体制水準を評価した。上記の学内体制に関する情報に該当する 11 項目（事故対策費用保険、緊急対応支援サービス、危機管理マニュアル、対策本部設置場所・役割分担、本部と部局の連携体制、緊急連絡網整備、緊急連絡網アップデート、緊急時対応費用の予算建て、危機管理シミュレーション実施、緊急時対応指針、延期・中止・退避の基準）について、「はい」を 1 点、「いいえ」（欠損含む）は 0 点として合計を学内体制水準として算出した。得点の分布から、低得点群（8 点以下）と高得点群（9－11 点）の 2 群に分類した。また、学生指導に関する項目を以下の要領で指標化し、学生指導水準を評価した。学生指導に関する情報に該当する 6 項目（海外旅行傷害保険加入、学研災への加入の必須化、危機管理の事前学習・オリエンテーション実施、注意点を記した資料配布、緊急連絡先の明示、安否確認のための定時連絡）を「はい」を 1 点、「いいえ」（欠損含む）は 0 点として合計し、学生指導水準として算出した。なお、すべての項目が欠損の場合のみ、学生指導スコアは欠損とし（51 件）、それ以外は欠損を「0」として計算した。得点の分布から、低得点群（0－5 点）高得点群（6 点）の 2 群に分類した。

(2)教職員に対するリスク管理マニュアルの作成

大阪大学危機管理マニュアルならびに GLOCOL リスク管理マニュアルに基づいた、教職員のシミュレーションを平成 26 年 7 月と平成 27 年 7 月に実施した。これらシミュレーションの結果をもとに、学生海外渡航時リスク管理対応モデルマニュアルを作成した。

(3)学生海外渡航時のリスク対応データベースの開発に関する予備研究

2 年間の研究結果を総括するべく、危機管理チェックリストを作成し、研究協力施設をはじめとする配布を希望した施設への配布を行った。さらに、学生海外渡航時の遭遇事案を登録するためのデータベースの試案を作成した。

４．研究成果

(1)危機管理体制に関するアンケート調査

①調査対象プログラムの特徴

調査対象プログラムは、国立 192 プログラム（50%）、公立 22 プログラム（6%）、私立 152 プログラム（40%）、短大・高専 16 プログラム（4%）、その他 1 プログラムであった。全プログラムのうち、教職員による引率プログラムは 41%と最も高く、次いで、学生一人

での渡航が 39%であった。派遣期間では 2 週間以上 1 ヶ月未満のプログラム（29%）と 2 週間未満のプログラム（19%）をあわせると約半数が 1 ヶ月未満の比較的短期のプログラムであった。

②リスクに関する学内体制

リスク管理に関する学内体制指標（範囲：0－11 点）の平均値は 6.35（標準偏差（SD）=2.64）であり、高得点群（9－11 点）は全体の 23%（86 プログラム）であった。リスク管理に関する学内体制に関する要因のうち、緊急時の対応費用の予算立て（24%）、プログラムの延期・中止・退避の基準設定の実施（32%）、危機管理シミュレーションの実施（40%）の実施割合が低かった。

③リスクに関する学生指導体制

学生指導指標（範囲：0－6 点）の平均値は 5.13（SD=0.95）であり、高得点群（6 点）は全体の 43%（142 プログラム）であった。学生指導に関する項目のうち、学研災への加入必須（57%）、注意点などを記載した資料の配布（79%）、安否確認のための定期連絡実施（79%）の実施率がやや低かった。

④リスク管理の学内体制水準と対象プログラムとの関連

国公立大学では約 26%がリスク管理に関する学内体制水準が高いプログラムであるのに対し、私立大学では 18%であったが、統計的には有意ではなかった。学内体制指標と派遣形態（教員引率の有無）や派遣期間との関連もみられなかった。

⑤リスク管理の学内体制水準とリスクに関する学生指導体制との関連

リスク管理の学内体制水準と学生指導指標には関連があり、リスク管理の学内体制水準が高い群で学生指導指標が高い傾向が認められた。

⑥危機管理マニュアルの有無と関連する学内体制

「危機管理マニュアル」が「あり」との回答が約 70%であったのに対し、「緊急時の対応指針」が「あり」との回答が約 47%であった。この項目間の関連を分析すると、危機管理マニュアルはあるがその中に緊急時の対応指針が含まれていない割合は 36%であった。また、85 プログラム（全体 383 プログラムの 22%）は危機管理マニュアルもなく、緊急時の対応指針も無かった。

「危機管理マニュアル」の有無と「延期・中止・退避の基準」との関連をみると、危機管理マニュアルがあるプログラムの中で、延期・中止・退避の基準が含まれていないプログラムは 61%であった。一方、危機管理マニュアルがないプログラムの中で延期・中止・退避の基準が定められていないプログラムは 82%だった。

⑦危機管理シミュレーション実施の有無と関連する学内体制

危機管理シミュレーションを実施しているプログラムのうち 44%が、緊急時対応指針がないと回答していた。さらに危機管理シミュレーションを実施しているプログラムのうち、対策本部設置場所・役割分担が決まっているプログラムは 83%であるのに対し、実施していないプログラムでは 69%であった。

⑧研究結果の公表

調査結果を文部科学省、外務省、日本学生支援機構、全国の大学等と共有し、今後の大学における学生海外渡航時のリスク管理を向上させるために、平成 28 年 1 月 27、28 日に公開シンポジウム「大学のグローバル化と学生海外渡航時のリスク管理　学生を守る・大学を守る」を、各関係者をはじめ 57 大学よりの参加を得て開催した。

(2)教職員に対するリスク管理マニュアルの作成

平成26年度はGLOCOL内の教職員が全員参加し、「バングラデシュでビル崩壊事故が発生し、派遣している学生の安否確認を行う」という状況設定のシミュレーションを行った。この中では、教員と事務職員の連携や現地と日本の大学との連携、さらには大学本部と GLOCOL との連携の問題点が明らかになった。

平成27年度はFDセミナー「全員参加型！ケーススタディから考える学生海外派遣時のリスク管理」を開催し、大阪大学全体より教職員28名の参加を得た。平成27年5月にボストンで行われたURMIA/NAFSA主催のリスク管理ワークショップに分担研究者が参加し、シミュレーション運営についての研修を受けたのちに、本FDを開催した。シミュレーションでは「パリで同時多発テロが発生し、派遣している学生の安否確認を行う」というテーマで行った。本テーマは図らずも、平成27年11月に発生したパリ同時多発テロを予見するかのような、状況設定となった。

上記の活動をもとに、研究チームで検討を重ね、「学生海外渡航時リスク管理対応モデルマニュアル　大阪大学グローバルコラボレーションセンター」を作成し、GLOCOL の Web ならびに大阪大学学術情報庫（Osaka University Knowledge Archive, OUKA）にアップした。（報告書末のアドレスを参照）

(3)学生海外渡航時のリスク対応データベースの開発に関する予備研究

本研究で作成した危機管理チェックリストは①プログラム運営体制、②プログラム企画書、③活動日程表、④予算書、⑤実施可否判断時のチェックリスト（渡航先の国や地域の安全性、実施時期・期間、活動内容、参加者、実施担当者、受入先担当者、予算、リスク分析、研修先、宿泊先、移動手段、医療施設、旅行会社、保険会社、リスク管理会社）、⑥実施決定後、渡航前のチェックリスト（学内体制、参加学生への対応、保護者への対応）、⑦プログラム終了後のチェックリスト（⑤と⑥の項目すべて）で構成されている。⑦のチェックリストをもとに、問題事案を洗い出し、データベースに登録を行うことが可能になった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

<u>大橋一友</u>　<u>敦賀和外</u>　<u>本庄かおり</u>　<u>安藤由香里</u>　片山　歩　大学における学生海外渡航時のリスク管理－リスク管理に関する質問紙調査からみる日本の大学の現状と課題、日本学生支援機構ウェブマガジン『留学交流』、査読有、60巻、2016、12－22

<u>大橋一友</u>　<u>敦賀和外</u>　<u>本庄かおり</u>　<u>安藤由香里</u>　片山　歩　海外体験型教育プログラムのつくり方－大阪大学グローバルコラボレーションセンターの経験から－、大阪大学高等教育研究、査読無、4巻、2016、73－86

<u>安藤由香里</u>　大学教職員のリスク管理シミュレーションのすすめ－海外体験型教育推進の準備と心構え－、立命館高等教育研究、査読無、第16号、2016、165－182

〔学会発表〕（計2件）

<u>大橋一友</u>　<u>安藤由香里</u>　片山　歩　大学教職員リスク管理シミュレーションのすすめ：海外体験型教育推進の準備と心構え、大学教育改革フォーラム in 東海、名古屋大学（愛知県、名古屋市）

片山　歩　大橋一友　敦賀和外　本庄かおり　安藤由香里　海外体験型教育プログラム短期派遣手続きとリスク管理：大学におけるより良い海外派遣プログラムをめざして、大学教育における「海外体験学習」研究会（JOELN）分科会③危機管理セッション、2015 年 12 月 5 日、あべのハルカス（大阪府・大阪市）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
大阪大学グローバルコラボレーションセンター
http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/
大阪大学学術情報庫
（Osaka University Knowledge Archive）
http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/

６．研究組織

(1)研究代表者
大橋　一友（OHASHI Kazutomo）
大阪大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：３０２０３８９７

(2)研究分担者
安藤　由香里（ANDO Yukari）
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・助教
研究者番号：２０６０８５３３

敦賀　和外（TSURUGA Kazuto）
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・准教授
研究者番号：４０５９５５９２

本庄　かおり（HONJO Yukari）
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・准教授
研究者番号：６０４４８０３２

小河　久志（OGAWA Hisashi）
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・助教
研究者番号：５０５８４０６７
（平成 26 年度のみ）

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：